

## 2 地理歴史・公民

学校番号

T3010

## 令和3年度 地理歴史科

教科	地理歴史	科目	世界史A	単位数	2単位	年次	2年次
使用教科書	『新版 高等学校 世界史A』 (清水書院)						
副教材等	なし						

## 1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

- ・歴史を背景とした世界の国の諸事情を踏まえ、現在の日本の在り方を考える。
- ・歴史的事象に「なぜ」の視点を持つ。  
また、それらを多面的・多角的に考察し、公正に判断する能力と態度を養う。
- ・歴史の中から、発展する社会を見据え、自分の意見や考えを持つとともに、異なる意見も尊重しながら課題解決していく考える力を養う。

## 2 学習の到達目標

- ・諸資料に親しみ、活用技能を培う。
- ・現代の諸課題を歴史と結び付け歴史的思考力を活用する
- ・世界の歴史を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
- ・細やかな事象や高度な事象、事項については深入りしない。  
生徒の実態に応じて社会に参画する力の育成を行う。

## 3 学習評価(評価規準と評価方法)

観 点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観 点 の 趣 旨	近現代史を中心とする世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、自主的に取り組む。	現代世界の諸課題を歴史的観点から考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現するとともに自身の考えを持つ。	近現代史を中心とする世界の歴史に関する諸資料を収集し、的確に有用な情報を選択して、読み取りやまとめる力を持つ。	近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付ける。
評 価 方 法	レポート ワークシート	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

#### 4 学習の活動

月	単元名		学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
				a	b	c	d		
4	第一編 ユーラシアの文明と交流	第1章 ユーラシアの諸文明	<u>1節 東アジア世界</u> 1 中国文明の成立と東アジア 2 アジア文化圏の形成 3 宋王朝と周辺諸国の国際関係 <u>2節 南アジア世界</u> 1 南アジアの文明とインド社会 <u>3節 東南アジア世界</u> 1 東南アジアの文化と海上交易 <u>4節 西アジア世界</u> 1 西アジアの古代文明 2 イスラーム文明の開花 <u>5節 ヨーロッパ世界</u> 1 古代地中海世界 2 ヨーロッパ世界の形成	○	○		◎	a:各地域の文明の誕生や特質について意欲的に追究する。 b:各地域の特質について考察し、その歴史的意義を判断するとともに適切に表現する。 c:写真、地図、年表等を活用して、各地域世界の展開と風土・宗教の特色を読み解く。 d:各地域の世界の特色を、風土・文化等の視点からとらえる	学習状況の観察 ワークシートの記述 レポート 定期考査
5									
6		第2章 ユーラシアの文明と交流	<u>1節 ユーラシアの交流とモンゴル帝国</u> 1 ユーラシアの交易路 2 遊牧社会の発展とモンゴル帝国 <u>2節 アジアの再編と繁栄</u> 1 中央アジアの再編とロシアの台頭 2 オスマン帝国とサファヴィー朝 3 明・清時代の大陸アジア 4 海域アジアの繁栄	◎		◎	○	a:ユーラシア各地に形成された諸文明の特質と、ユーラシアの交流について関心を高め、意欲的に追究する。 b:ユーラシア諸文明と交流の特質を見だし、地域世界相互の文化変容などと関連付けながら多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 c:必要な諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり、図表などにまとめる。 d:ユーラシア各地に形成された諸文明と交流の特質について理解し、その知識を身に付ける。	
7									

月	単元		学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
				a	b	c	d		
8 9		第3章ヨーロッパの再編...	<u>1節 ヨーロッパの新時代</u> 1 ヨーロッパの航路開拓とアメリカの植民地化 2 ルネサンスと宗教改革  <u>2節 ヨーロッパの主権国家と大西洋世界</u> 1 主権国家体制 2 成熟するヨーロッパ諸国 3 大西洋貿易の時代	○		◎	◎	a: 大航海時代におけるヨーロッパの海外進出、ルネサンスと宗教改革などの動き、ヨーロッパの主権国家体制の成立などに対する関心を高め、意欲的に追究する。 b: この時代の特徴を見だし、世界商業の進展などに関連付けて多面的・多角的に考察し、その過程や結果をまとめる。 c: この時代に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して読み取ったり、図表にまとめる。 d: 大航海時代におけるヨーロッパの海外進出、ルネサンスと宗教改革などの動き、ヨーロッパの主権国家体制の成立について理解し、その知識を身に付ける。	学習状況の観察  ワークシートの記述  レポート  定期考査
10 11	第2編 一体化する世界	第4章 拡大する欧米の衝突とゆるれる・	<u>1節 革命の時代へ</u> 1 産業革命と一体化する世界 2 アメリカ独立革命 3 フランス革命とナポレオン 4 ラテンアメリカ諸国の独立 <u>2節 国民国家建設に向かう欧米諸国</u> 1 ウィーン体制 2 自由主義運動と社会主義 3 1848年革命 4 帝国の再編と国民国家 5 発展するアメリカ合衆国 <u>3節 帝国主義とアジア・アフリカの従属化</u> 1 第2次産業革命と欧米諸国 2 ムガル帝国の崩壊 3 オスマン帝国の衰退と西アジア 4 東南アジアの植民地化と太平洋分割 5 アフリカの分割とラテンアメリカ <u>4節 東アジアと日本の帝国主義化</u> 1 清朝の動揺 2 東アジアの中の日本と朝鮮 3 日清・日露戦争とアジア進出	◎		○	◎	a: 18世紀後期以降の諸地域世界において、社会の変化と新たな社会の成立、ヨーロッパの進出によるアジア・アフリカ・アメリカ大陸の変貌に対する関心を高め、意欲的に追究する。 b: 18世紀後期以降の諸地域世界の変貌の特徴を見だし、19世紀の世界の一体化と関連付けて、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表す。 c: 18世紀後期以降の諸地域世界の変貌に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して読み取ったり図表などにまとめる。 d: 18世紀後期以降の諸地域世界の変貌についての基本的な事柄を19世紀の世界の一体化と関連付けて理解し、その知識を身に付ける。	

月	単元名		学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
				a	b	c	d		
12	第3編 現代世界と地球社会への歩み	第5章 世界戦争の時代	<u>1 節 急変する人類社会</u> 1 現代社会のはじまり <u>2 節 第一次世界大戦と「民族自決」</u> 1 第一次世界大戦 2 ロシア革命 3 ヴェルサイユ体制とワシントン体制 4 第一次世界大戦後のヨーロッパとアメリカの繁栄 5 西アジア・インド・東南アジアの民族運動 6 朝鮮・中国の民族運動 <u>3 節 第二次世界大戦の悲劇</u> 1 世界恐慌 2 ファシズムの台頭と日本の軍国主義 3 第二次世界大戦の勃発 4 アジア太平洋戦争 5 世界戦争の終結	◎	○			a:19 世紀末から 20 世紀初頭にみられた社会の急激な変化や、二つの世界大戦の原因や影響と平和の意義などに対する関心を高め意欲的に追究する。 b:20 世紀初頭にみられた社会の急激な変化の具体的な様相や、二つの世界大戦の原因や影響と平和の意義について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現する。 c:20 世紀の特質、二つの世界大戦の原因や総力戦としての性格、両大戦の影響と平和の意義などに関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり、図表などにまとめる。 d:20 世紀の基本的な事柄や、二つの世界大戦の原因や総力戦としての性格についての基本的な事柄を両大戦の影響と平和の意義などと関連付けて理解し、その知識を身に付ける。	学習状況の観察 ワークシートの記述 レポート 定期考査 振り返りシート
2		第6章 大戦後の世界と現代社会	1 節 冷戦期の世界 1 戦後世界の新たな枠組み 2 冷戦の拡大とアジア・アフリカ諸国 3 平和共存に向かう世界 4 世界経済の変動と冷戦の終結 <u>2 節 現代世界の歩みとその課題</u> 1 南北アメリカ・ヨーロッパの諸課題 2 ロシア・中央アジアの諸課題 3 西アジア・アフリカの諸課題 4 南・東南アジアとオセアニアの諸課題 5 東アジアの諸課題	○			◎	a:第二次世界大戦後の諸地域世界について、現在まで続く課題に対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている b:第二次世界大戦後の諸地域世界について、現在の政治・経済の動向と関連付けて、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 c:第二次世界大戦後の諸地域世界の問題などに関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり、図表などにまとめている。 d:第二次世界大戦後の諸地域世界についての基本的な事柄を、世界の政治・経済の動向と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。	

※ 表中の観点について      a: 関心・意欲・態度      b: 思考・判断・表現  
                                         c: 資料活用の技能      d: 知識・理解

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。◎は、その中でも特に重点的に評価を行う観点である。